

2021年2月期 決算期 (2020年3月1日～2021年2月28日)

決算説明資料



© 2021 WARNER BROTHERS ENTERTAINMENT INC. & LEGENDARY PICTURES PRODUCTIONS LLC.

2021年4月13日(火)



2021年2月期 通期 営業概況

	2020年2月期 (2019年3月～2020年2月)	2021年2月期 (2020年3月～2021年2月)	前期比	増減率
営業収入	262,766百万円	191,948百万円	70,818百万円	-27.0%
営業利益	52,857百万円	22,447百万円	30,409百万円	-57.5%
経常利益	55,068百万円	24,195百万円	30,872百万円	-56.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	36,609百万円	14,688百万円	21,920百万円	-59.9%

2021年2月期 営業概況

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、当社の主力事業である映画・演劇・不動産各事業への影響は、第4四半期においても継続しております。12月1日以降はガイドライン変更に基づき、映画館の全サイトで通常営業(全座席販売・座席での飲食可)を行ってまいりました。しかしながら、1月7日付の緊急事態宣言の再発出を受けて、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県では1月9日から3月7日まで、栃木県(2月8日解除)、愛知県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、福岡県では1月13日から2月28日まで、20時までには上映を終了する営業時間短縮や、アルコール類の時短販売を行いました。また、演劇事業においても、10月公演の新作演目よりほぼ通常スタイルの公演実施に取り組んでおりましたが、同宣言を受けて、販売可能座席数の制限に則りながら、舞台と客席間の距離の確保や、20時までの終演時間の変更等の対応をとり、公演を行ってまいりました。

【第4四半期の概況】

第3四半期から続映の『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』が成績を大きく伸ばし、引き続き映画事業を牽引。映画営業事業は、上記作品に加え、お正月作品『新解釈・三國志』、『映画 えんとつ町のプペル』、『約束のネバーランド』等の新作がスマッシュヒット。映画興行事業は、『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』を含む当社配給作品を中心に、お正月興行までは順調に推移したものの、再度の緊急事態宣言の発出による作品の公開延期等の影響を受け、やや低調に推移。映像事業において、アニメ製作事業での『呪術廻戦』への製作出資や、パッケージ事業において、『僕たちの嘘と真実 Documentary of 櫻坂46』の販売が伸長。

演劇事業では、帝国劇場公演『DREAM BOYS』、『Endless SHOCK -Eternal-』は好調に推移したが、間隔を確保した座席販売やシアタークリエの一部公演が中止となった影響もあり、引き続き厳しい状況。

不動産事業では、不動産賃貸事業において、引き続き保有物件のテナントに対する賃料減額による減収があったが、不動産保守・管理事業において、ホテルや劇場の清掃業務等の受注が回復傾向。スバル興業株と同社の連結子会社における道路事業は堅調に推移。

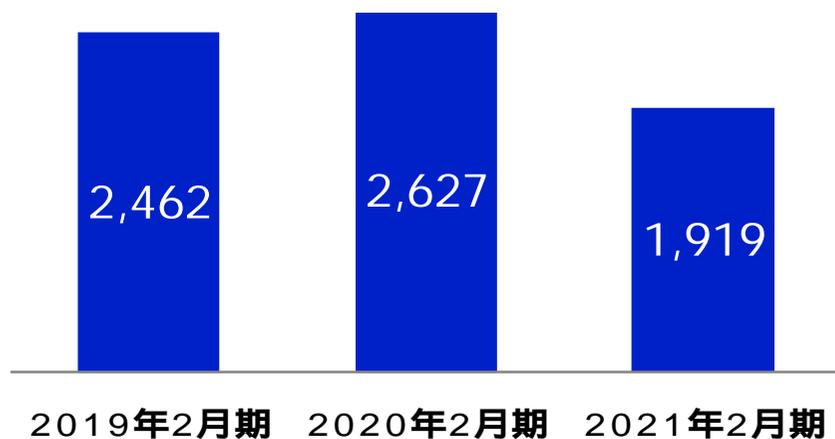
以上により、通期としては、営業収入で前期比27.0%の減収、営業利益で前期比57.5%の減、経常利益で前期比56.1%の減、親会社株主に帰属する当期純利益で前期比59.9%の減、と各段階において新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残り、大幅な減収減益。

なお、劇場や商業施設等の臨時休業期間中の人件費・借家料・減価償却費等、ならびに緊急事態宣言発出以後、解除されるまでの期間に中止を決定した演劇公演に係る製作費用等を「臨時休業による損失」として特別損失に計上しています。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金等を「助成金収入」として特別利益に計上しています。

営業概況3力年比較

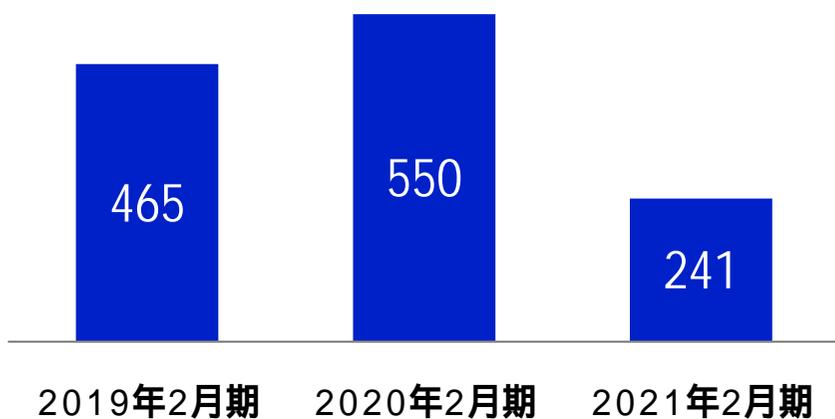
営業収入



営業利益



経常利益



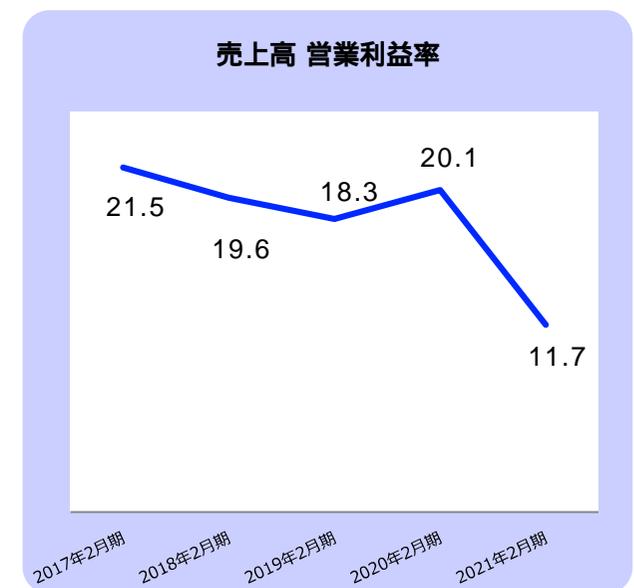
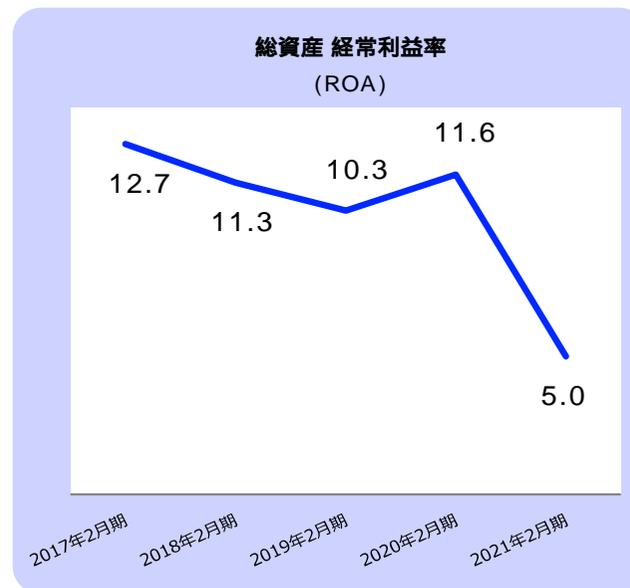
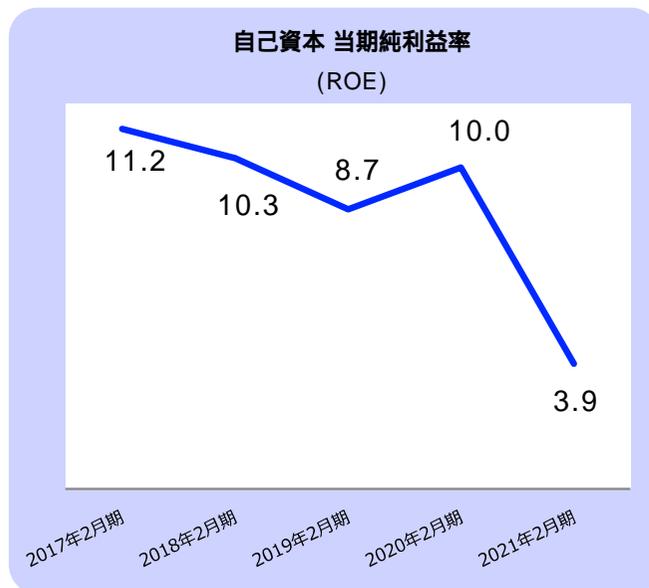
親会社株主に帰属する当期純利益



(単位：億円)

経営指標の推移

	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
2017年2月期	11.2	12.7	21.5
2018年2月期	10.3	11.3	19.6
2019年2月期	8.7	10.3	18.3
2020年2月期	10.0	11.6	20.1
2021年2月期	3.9	5.0	11.7



(単位: %)

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2020年2月期 (2019年3月～2020年2月)	2021年2月期 (2020年3月～2021年2月)	増減率	2020年2月期 (2019年3月～2020年2月)	2021年2月期 (2020年3月～2021年2月)	増減率
映画事業	172,961	116,197	-32.8%	33,989	10,351	-69.5%
映画営業	48,807	39,840	-18.4%	12,402	6,478	-47.8%
映画興行	91,258	46,242	-49.3%	14,948	1,100	-
映像事業	32,895	30,114	-8.5%	6,639	4,973	-25.1%
演劇事業	17,547	7,948	-54.7%	4,082	1,066	-
不動産事業	67,713	65,124	-3.8%	18,670	17,062	-8.6%
不動産賃貸	29,665	27,913	-5.9%	13,611	12,329	-9.4%
道路事業	27,211	27,460	0.9%	4,090	4,048	-1.0%
不動産保守・管理	10,836	9,750	-10.0%	969	684	-29.4%
その他事業	4,543	2,678	-41.1%	78	320	-

(単位:百万円)

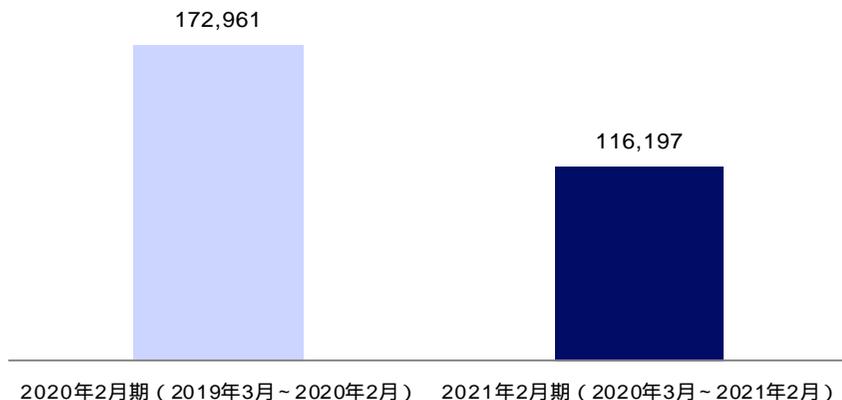
セグメント別業績 (2021年2月期 四半期別)

	営業収入				営業利益			
	第1四半期 (2020年3月～5月)	第2四半期 (2020年6月～8月)	第3四半期 (2020年9月～11月)	第4四半期 (2020年12月～2月)	第1四半期 (2020年3月～5月)	第2四半期 (2020年6月～8月)	第3四半期 (2020年9月～11月)	第4四半期 (2020年12月～2月)
映画事業	14,803	23,121	44,346	33,927	544	1,491	6,864	2,540
映画営業	3,577	8,455	16,459	11,349	86	2,849	3,128	415
映画興行	3,525	8,744	19,838	14,135	1,722	2,078	2,565	135
映像事業	7,700	5,923	8,049	8,442	1,092	721	1,169	1,991
演劇事業	674	1,395	2,724	3,155	710	436	103	23
不動産事業	17,076	15,798	15,938	16,312	5,046	4,269	4,080	3,667
不動産賃貸	6,964	7,116	7,018	6,815	3,315	3,168	3,128	2,718
道路事業	7,606	6,468	6,453	6,933	1,649	918	753	728
不動産保守・管理	2,506	2,213	2,468	2,563	81	183	199	221
その他事業	457	664	842	715	79	115	38	88
全社	33,012	40,979	63,849	54,108	2,803	4,295	10,078	5,271

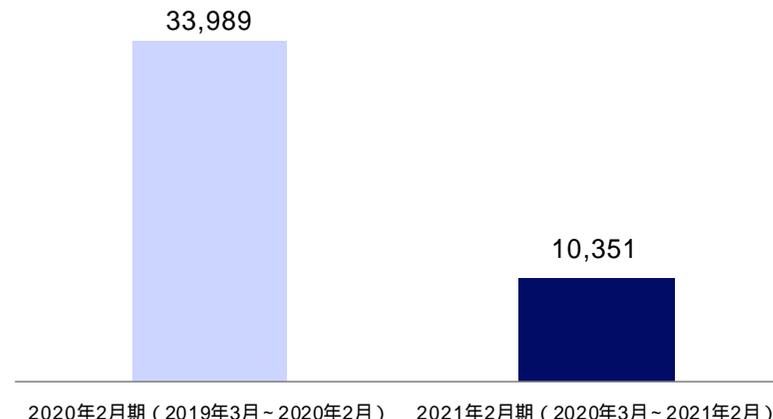
(単位: 百万円)

セグメント別業績【映画事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 映画営業事業では、続映中の『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』が興行収入390億円を突破し興行収入記録の更新を続け、映画事業全体の業績に引き続き貢献。上記に加え『新解釈・三國志』（興行収入40.1億円）、『映画 えんとつ町のプペル』（同23.9億円）、夏から公開時期を変更した『ポケットモンスター ココ』（同17.7億円）等、複数のヒットを記録。第1四半期の映画館全面休業の影響が残り、通期では減収減益。
- 映画興行事業では、TOHOシネマズにおいて、12月1日より全サイトにて通常営業（全座席販売・座席での飲食可）を再開。『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』を中心に当社配給作品が稼働したが、第1四半期の映画館全面休業や洋画作品等の期待作の公開延期、また、緊急事態宣言の再発出による一部劇場での営業時間の短縮等も影響し、通期での営業損益は赤字を計上。
- 映像事業では、アニメ制作事業では、TVアニメ「呪術廻戦」等に製作出資。パッケージ事業において、『僕たちの嘘と真実 Documentary of 櫻坂46』が好調に推移。ODS事業において、『Endless SHOCK』を提供。出版商品事業において、『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』等の劇場用パンフレットやキャラクターグッズの販売が好調に推移するも、洋画作品等の期待作が公開延期となったこと等が影響し、通期では減収減益。

(興行収入は2021年3月末時点)

当期の主要稼働作品状況

興行収入10億円以上の作品（3月末時点）

公開日	作品名	興行収入
7月17日	今日から俺は 劇場版	53.7
7月23日	コンフィデンスマンJP プリンセス編	38.4
8月7日	映画ドラえもん のび太の新恐竜	33.5
8月21日	糸	22.7
9月11日	映画クレヨンしんちゃん 激突！ラクガキングダムとほぼ四人の勇者	11.8
10月2日	浅田家！	12.1
10月16日	劇場版「鬼滅の刃」無限列車編	391.4
10月30日	罪の声	12.2
11月20日	STAND BY ME ドラえもん 2	27.5
12月11日	新解釈・三國志	40.1
12月18日	約束のネバーランド	20
12月25日	映画 えんとつ町のプペル	23.9
12月25日	劇場版ポケットモンスター ココ	17.7
2月11日	名探偵コナン 緋色の不在証明	11.9

（単位：億円）

当期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位: 円)

	132期	131期	前年比
3月	1,202,249,004	6,203,048,140	19.4%
4月	138,867,250	10,412,314,200	1.3%
5月	68,957,350	11,445,925,516	0.6%
1Q	1,410,073,604	28,061,287,856	5.0%
6月	704,847,150	5,437,182,516	13.0%
7月	5,524,371,150	7,774,289,420	71.1%
8月	8,938,505,850	11,504,322,040	77.7%
2Q	15,167,724,150	24,715,793,976	61.4%
9月	4,215,769,262	8,069,301,900	52.2%
10月	16,595,851,250	3,746,389,620	443.0%
11月	15,423,752,960	1,450,595,250	1063.3%
3Q	36,235,373,472	13,266,286,770	273.1%
12月	12,846,193,900	3,254,165,150	394.8%
1月	7,389,814,940	3,649,521,430	202.5%
2月	3,116,714,616	2,614,817,590	119.2%
4Q	23,352,723,456	9,518,504,170	245.3%

東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

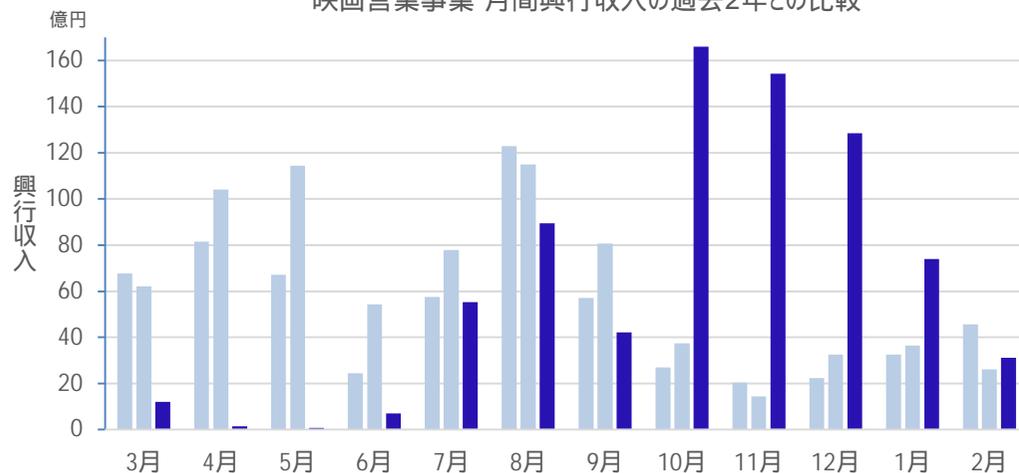
映画興行事業 興行収入推移

(単位: 円)

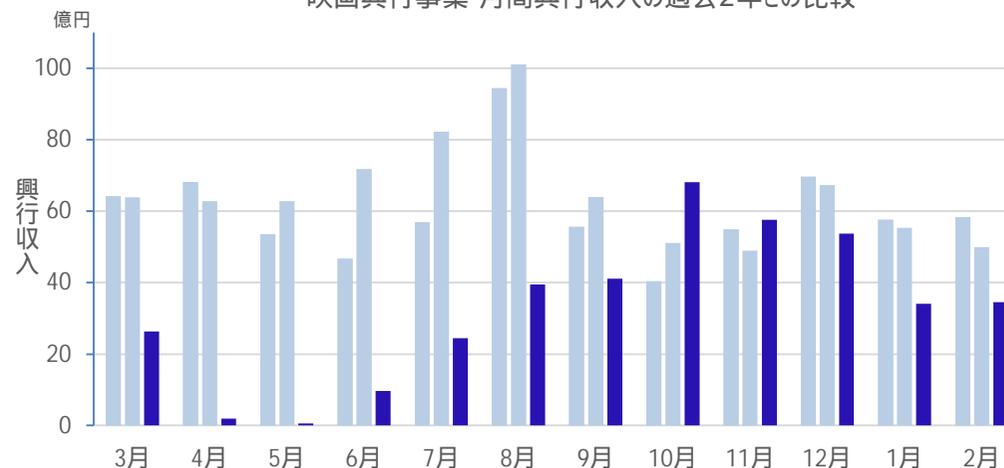
	132期	131期	前年比
3月	2,637,484,812	6,395,227,330	41.2%
4月	197,832,004	6,284,589,579	3.1%
5月	59,131,870	6,276,502,285	0.9%
1Q	2,894,448,686	18,956,319,194	15.3%
6月	972,494,252	7,182,958,129	13.5%
7月	2,447,555,473	8,231,336,463	29.7%
8月	3,955,265,644	10,109,147,112	39.1%
2Q	7,375,315,369	25,523,441,704	28.9%
9月	4,108,038,345	6,396,444,543	64.2%
10月	6,817,202,926	5,103,457,315	133.6%
11月	5,758,736,645	4,892,924,963	117.7%
3Q	16,683,977,916	16,392,826,821	101.8%
12月	5,371,681,212	6,735,718,718	79.7%
1月	3,412,817,106	5,532,162,350	61.7%
2月	3,451,248,519	4,998,581,001	69.0%
4Q	12,235,746,837	17,266,462,069	70.9%

全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入(東宝配給作品を含む)

映画営業事業 月間興行収入の過去2年との比較

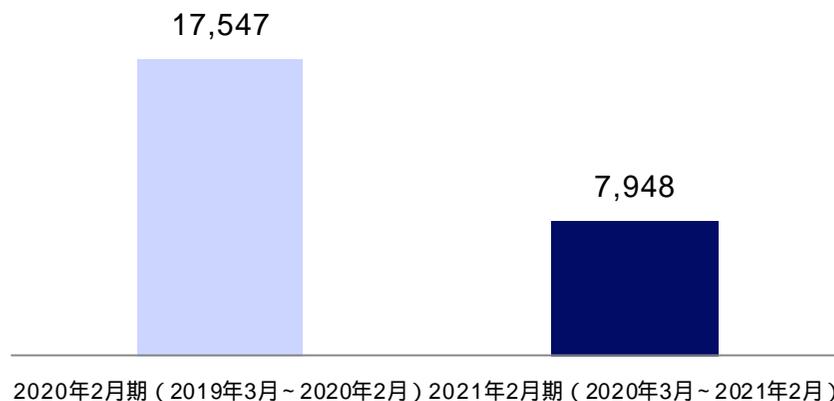


映画興行事業 月間興行収入の過去2年との比較

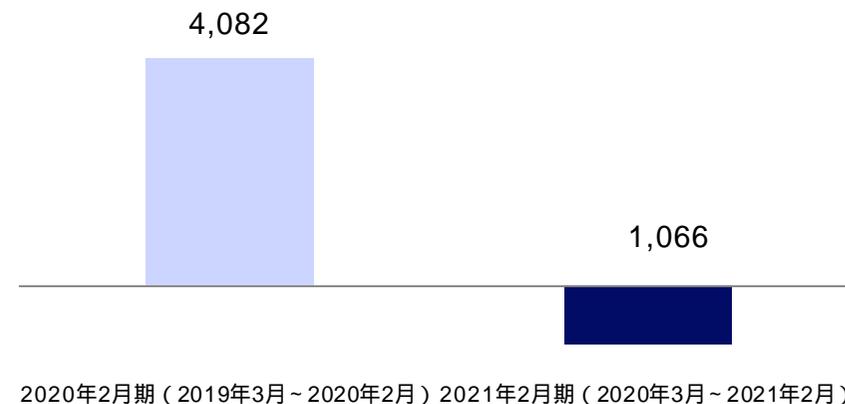


セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



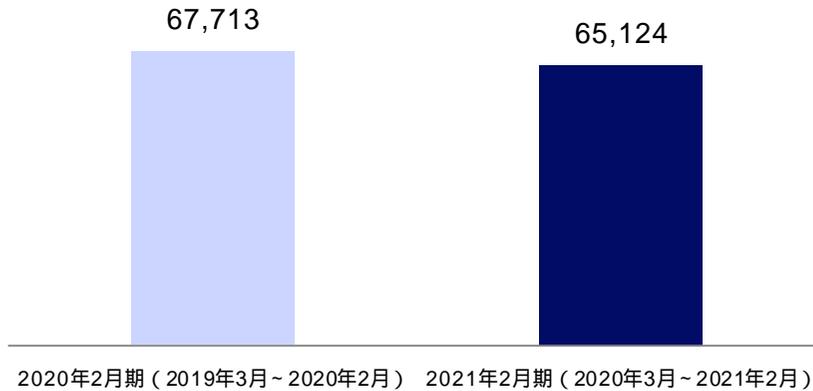
(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

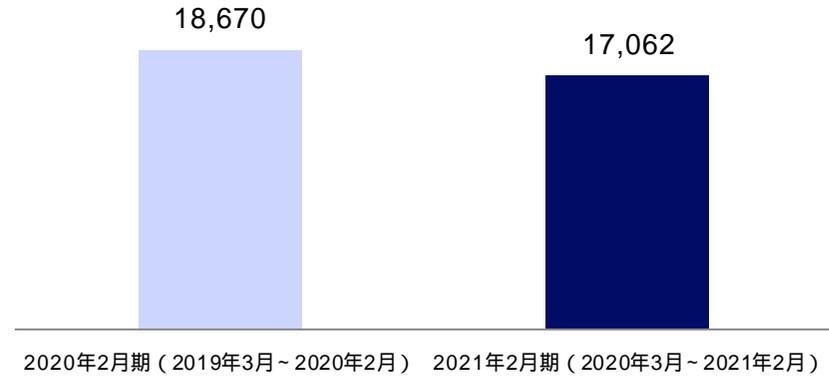
- 帝国劇場では、『DREAM BOYS』（12月～2021年1月公演）は感染防止対策として出演者数を抑え、幕間をなくす等の対応を行い公演を実施。
『Endless SHOCK -Eternal-』（2021年2月～3月公演）では、緊急事態宣言の再発出や自治体からの要請によって、一部公演においては、販売可能座席数に制限を設けながら公演を実施。
- シアタークリエでは、『オトコ・フタリ』（12月公演）、『ローズのジレンマ』（2021年2月公演）を上演。
公演関係者が新型コロナウイルス感染症に感染したため、『イフ/ゼン』（2021年1月～2月公演）の全公演を中止。
- 外部公演では、東急シアターオーブにおいて、『プロデューサーズ』（11月～12月公演）や『マリー・アントワネット』（2021年1月～2月公演）を上演し、堅調に稼働。
演劇事業としては、一部演目にて有料のライブ映像配信による新たな収益源の確保に努めたものの、1回目の緊急事態宣言による劇場休業や宣言解除後も公演中止が長引く等、新型コロナウイルスの影響が大きく、通期での営業損益は赤字を計上。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、商業施設の営業時間短縮や臨時休館を実施したことに伴う賃料の免除や、保有する物件の入居テナントに対しても賃料減額の措置を講じたこと等もあり、通期では減収減益。
- 道路事業では、防災・減災対策や老朽化するインフラ整備をはじめとする公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努め、増収となるもわずかに減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、ホテルや劇場等、商業施設の経済活動が再開し、受注回復の動きがみられるものの、第1四半期の臨時休業等の影響が残り、通期では減収減益。

業績・配当予想

■ 2022年2月期連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
2022年2月期（予想）	214,000	32,000	33,500	20,500	115.20
前期実績増減率	11.5%	42.6%	38.5%	39.6%	
（ご参考） 2021年2月期実績	191,948	22,447	24,195	14,688	82.54

■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2022年2月期(予想)		17.50		17.50	35.00
（ご参考） 2021年2月期実績		17.50		17.50	35.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東宝株式会社 総務部 広報・IR室 TEL03-3591-1303